

# 令和2年度学校自己評価システムシート (県立児玉白楊高等学校)

n19

目指す学校像	母校を愛し、地域の未来を担う心豊かな産業人を育成する学校
--------	------------------------------

重点目標	1 主体的な学びの実現と確かな学力の育成 2 地域と協働した魅力ある学校づくり 3 実学としての資格取得の推進と100%の進路実現 4 社会で通用する産業人の育成と部活動の充実
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>生徒の基礎学力の定着による「確かな学力」の育成は、本校にとって重要な課題である。その際、最も効果的なのは、生徒が主体的(自主的)に取り組むようになることである。そのためには、全教職員が「主体的な学び」を実現すべく、日々授業改善に取り組む必要がある。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る臨時休業による影響について、ICTの活用など学校運営の工夫により対応する必要がある。</p>	(1) 教職員が「主体的な学びの実現」に向けた授業改善を行う。	(1) 有能感・自己決定感・対人交流を意識させ、生徒の主体的に学習に取り組む態度を醸成する。 (2) タブレット端末やプロジェクター等 ICT を活用した授業や Google Classroom 等の支援ツールを活用した学習支援を推進する。	(1) 生徒アンケートにより、学習に主体的に取り組む生徒が8割を超えたか。 (2) 8割の教員がタブレット端末やプロジェクター等 ICT を活用した授業や Google Classroom 等の支援ツールを活用した学習支援を行ったか。			
		(2) 生徒の「確かな学力の育成」に向けた個に応じた学習支援を行う。	(1) 朝学習に主体的に取り組むことにより、基礎的な知識・技能を習得させる。 (2) 生徒の実態に応じた個別指導及び成績不振者に対する指導を充実させる。 (3) 学習サポーターによる授業中や長期休業中の個別指導を充実させる。	(1) 基礎学力診断テストにより7割の生徒が、基礎学力が向上したか。 (2) 学習に課題を抱える生徒や成績不振者に個別指導や補習等を実施し、欠点解消率7割を達成できたか。 (3) 学習サポーターの支援で理解が深まったとする生徒が7割を達成したか。			
2	<p>現代社会では、学校の抱える課題は複雑化・困難化し、地域においては、若年層の都心部への流失による活力の低下、家庭の教育力の低下などの課題を抱え、それぞれ単独では解決が困難な状況になっている。今まさに学校と地域が協働した学校づくり・地域づくりが不可欠になっている。</p> <p>このような中、本校においては、今までの取組をステップに、地域連携の取組、地域への情報発信などを更に深め、地域と一体となった学校づくりを行うとともに、学校を核とした地域づくりにも貢献し、児玉高校との統合も見据え、魅力ある学校・地域づくりに取り組む必要がある。</p>	(1) 地域との連携・協働の取組(「知る」「助けてもらう」「助ける」)を行う。	(1) 地域交流を推進し、地元イベント等へ引き続き参加する。 (2) 市や自治会と連携し、課題解決に向け地域と協働する学校体制づくりを推進する。 (3) 地元企業の技術者や農業関係者の知識・技能を授業や補習等に活用する。	(1) 地元イベントへ参加5回以上できたか。 (2) 市や自治会等と、地域課題の考察や解決に向けた方策等を共有する機会を設けられたか。 (3) 地元企業や農業関係者の知識・技能を活用した授業等を5回以上実施できたか。			
		(2) 地域に学校の魅力を発信する。	(1) 地元の小学生等を対象に、動物ふれあい体験、作業体験、親子でおもしろ体験講座等を実施する。 (2) 各学科の教育活動をパネルにして地元中学校に展示してもらう。 (3) 学校だけでなく、HP等により本校の取組をリアルタイムで発信する。	(1) 動物ふれあい体験、作業体験、親子でおもしろ体験講座等を年5回以上実施できたか。 (2) 2学期にパネルを作成し、地元8中学校に2週間ずつ展示できたか。 (3) 学校だけでなく年10回程度発行し地域回覧できたか。また、HPの更新回数(R1:105回)を前年より増やし、アクセス率が年度当初比2倍になったか。(R1:9割増)			
3	<p>本校では専門学科の特色を生かし、就職や社会で役立つ資格取得に積極的に取り組ませている。この成果を生かし、更に充実させ実績を高め、生徒募集にもつなげていく必要がある。</p> <p>また、教職員の並々ならぬ努力により、就職内定率100%を達成している。新型コロナウイルス感染症対策の中、今後厳しい状況が予想されるが、この成果を維持すべく、きめ細かな進路指導や資格取得の支援、また新たな就職先の開拓などに、全教職員が丸一となって取り組む必要がある。</p>	(1) 実学としての資格取得の取組を充実させる。	(1) 専門性の高い難関資格取得に向け、授業や補習等の充実を図る。 (2) 高校生専門資格等取得表彰、ジェエマイスター・アグリマイスター顕彰等の取得を推奨する。	(1) 昨年度より検定や資格の取得率が向上したか。また、授業や補習等を充実できたか。 (2) 高校生専門資格等取得表彰、ジェエマイスター・アグリマイスター顕彰等の取得者が昨年比で増加したか。			
		(2) 生徒の進路希望を100%実現させるための進路指導等を行う。	(1) 各学年で進路ガイダンスや講演会を実施する。 (2) 2学年のインターシップに、就職希望者全員を参加させる。 (3) 就職希望者の会社訪問や進学希望者の学校見学を実施させる。	(1) 各学年で年間計画に基づき進路ガイダンス等を実施できたか。 (2) 2学年の就職希望者が全員インターシップに参加したか。 (3) 会社見学や学校見学を通して進路意識が高まり、100%の進路実現につながったか。			
4	<p>昨年度、本校では遅刻生徒の延べ数が増加した。生徒を社会で通用する産業人に育てるには、遅刻を含め基本的な生活習慣とともに社会人としてのマナーなどを身に付けさせなければならない。そのために、家庭との連携を密にしながら生徒の自覚を促す効果的な指導を行う必要がある。</p> <p>また、充実した高校生活には、部活動は重要な要素である。児玉高校との統合を見据え、部活動の充実に向けた環境づくりに取り組む必要がある。</p>	(1) 社会で通用する産業人を育てるため、基本的な生活習慣と社会人のマナーを身に付けさせる。	(1) 朝の遅刻指導や日常の整容指導を継続し、基本的な生活習慣や社会人としてのマナーを醸成する。 (2) メール配信を用いて学校からの連絡等を確実にし、保護者との連携を強化する。 (3) 巡回相談を活用し、特別支援を要する生徒とその保護者への支援を行う。また、学校として特別支援教育の体制づくりを行う。	(1) 遅刻指導や整容指導により、前年比で指導対象者が減少したか。 (2) 保護者への配布物や行事等の連絡をメール配信やHPでも9割以上行うことができたか。 (3) 巡回相談を年8回実施したか。また、校内委員会を年5回以上開催し、要支援の生徒情報を共有し支援方法やエビデンスの導入等の検討ができたか。			
		(2) 高校生活の重要な要素である部活動の充実に向けた環境づくりに取り組む。	(1) 部活動の意義を学年集会や保護者会等で、生徒や保護者に伝え、途中で退部する生徒を減少させる。 (2) 児玉高校との部活交流を推進し、合同練習や合同合宿等を推進する。	(1) 生徒アンケートにより、部活動に充実感を感じる生徒の割合が増えたか。 (2) 児玉高校との部活動交流を行ったか。合同チームで試合等に参加できたか。			

学校関係者評価
実施日 令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等